

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	歩楽里			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人（登録家庭数）	(回答者数)	22人
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもたちの活動等のスペースが十分に確保されている。	活動内容に応じて、広めの部屋や個室、調理活動ができる食堂、量のリラックススペースなど複数の部屋を使い分けています。障がい特性やその時の状況に応じて、適切な環境を提供できるよう工夫しています。	必要な機器や備品を随時補充し、リラックスできる時間の充実を図ります。
2	年齢に応じた活動内容の提供をしている。	小学生と中学生で活動内容や活動スペースを分け、年齢に応じた支援を行っています。 小学生には「心と身体の成長」を目的に多様な活動を用意し、中学生には「大人になる準備」として社会性を学びながら楽しめる活動を提供しています。	集団活動に加え、自由時間を活用した「一人で安全に過ごす」ための個別支援にも取り組み、余暇支援の充実を図ります。
3	長期休みや休日の余暇支援の実施。	長期休みや休日には、外出を中心とした余暇支援を行っています。公共施設や余暇施設の利用、公共交通機関を使った外出、飲食店での外食や買い出しを含む調理活動などを実施し、楽しみながら平日にはできない体験ができる機会となっています。	利用者主体の外出企画を取り入れ、自己選択・自己決定の機会を設けることで、お子さんが自主的に行動できるよう支援します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもたちとの活動機会が限られています。	地域の小学校からの利用者が少なく、学校や児童館との連携や交流が十分ではありません。また、地域住民の方々との関わりも、あいさつ程度にとどまっているのが現状です。	長期休み等に、地域の子どもたちと一緒に参加できるレクリエーションや、地域住民も参加できる行事の開催を検討します。
2	保護者同士やきょうだい同士の交流機会が少ない状況です。	年に1～2回、ご家族参加型の行事を実施していますが、家族やきょうだい同士の交流に特化した内容ではないため、参加者が固定化し、きょうだいの参加率も低い状況です。	ご家族のご意見を伺いながら、保護者やきょうだい同士が交流できる行事や交流会の企画を検討します。
3	非常時マニュアルの周知や説明が十分ではありません。	各種マニュアルは策定されていますが、保護者への周知や説明が十分ではない状況です。	面談などを通じて、緊急時や非常時の対応に関する説明とマニュアルの周知を行い、改善を図ります。あわせて、ホームページ等を活用し、いつでも確認できる環境の整備を進めます。